吉水流詠唱平成新曲合本

図表用

净 土 宗 吉 水 講

水 講 信 条

私 たちはこの詠唱を通じ

篤く三宝を敬い、仏祖の恩徳に報います。

元祖法然上人の教えを体し、この道の興隆に励

みます。

、互いに助け合い、念仏をよろこびます。

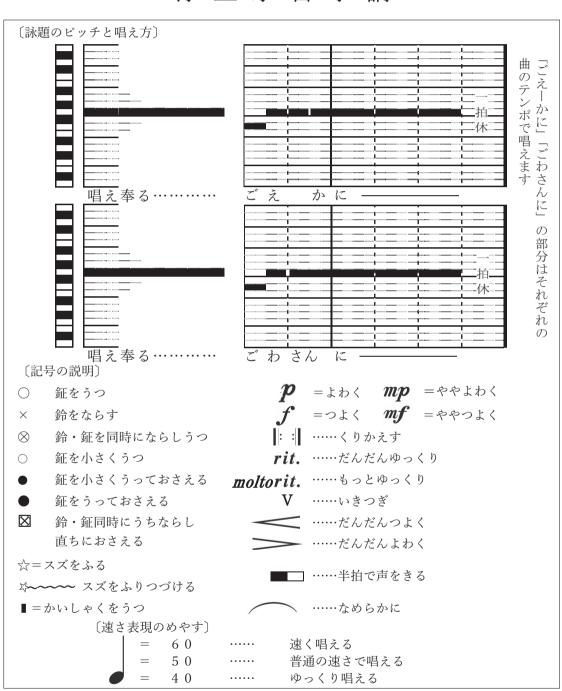
自らのつとめにいそしみ、家庭の平和を念じ

ます。

、広く同信を募り、社会の浄化につとめます。

吉水流詠唱平成新曲合本

净土宗吉水講

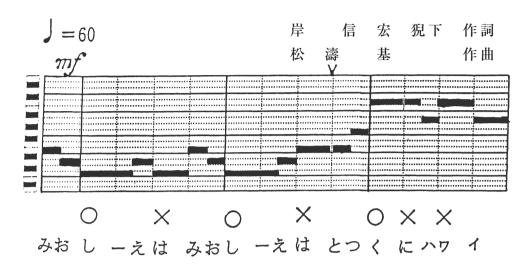


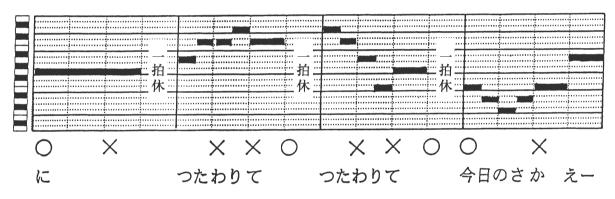
目 次

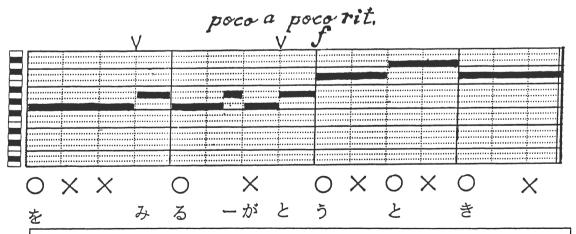
浄土宗ハワイ開教区の御詠歌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
仏名会和讃	8
久美浜本願寺の御詠歌 ・・・・・・・・・・・・ 1	0
念仏往生和讃	2
袋中上人顕彰和讃 ······ 1	4
日日に新たの御詠歌	6
引接和讚	8
金戒光明寺和讃	2
聖冏上人鑽仰和讚 · · · · · · · · · · 2	6
蓮華寺の御詠歌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	8 8

蓮生法師和讃 · · · · · · · · · · 3	0
宗祖法然上人八百年大遠忌和讃 … 3	4
かたみとての御詠歌 3	6
熊谷寺の御詠歌 ・・・・・・・・・・・・・・ 4	0
鎌倉光明寺和讃 … 4	2
霊沢上人和讃	6
善導寺和讃 · · · · · · · · · 4	8
平和和讃 … 5	2
蓮華寺和讃	4
一向上人和潜 ······ 5	8

浄土宗ハワイ開教区の御詠歌







ポイント注意

- 「弱起」の曲です。声の立ち上がりソフトに。
- ●速度遅くならないように。4拍子のリズムを強調します。

浄土宗ハワイ開教区の御詠歌

浄土門主・総本山知恩院門跡第八十三世岸信宏猊下御作

み教えは とつくに布哇に つたわりて 今日の栄えを 見るがたうとき (ハワイ開教区)

ホノルルの 別院の庭 若き日の

祖師の銅像 厳然としてたつ (オアフ島ハワイ浄土宗別院)

ハレイワの 海辺のみ寺 あたらしく 御寺たつとて 式を行なふ (オアフ島ハレイワ浄土院)

花多き ハワイの島に その名さえ

極楽鳥という ありてうれしき (ハワイ島カーチスタウン浄土院)

クロトンの 葉の美しき ヒロに来て

にわかの雨に 会うもうれしき (ハワイ島ヒロ明照院)

四十日 ハワイの島々 めぐりえて

相師の遠忌を つとむうれしさ (ハワイ島ワイナク浄土院)

み教えを ここにうちたて 七十年

けふよろこびの ハカラウの寺 (ハワイ島ハカラウ浄土院)

日系の 人達多く 眠る墓

鳳凰木の 大樹しげれり

(ハワイ島ハマクア浄十院)

見晴るかす ハワイ三山 足もとに

ひろがる牧場 はてしも知らず (ハワイ島コハラ浄土院)

溶岩の 流れし中を 一筋の

道つらねけり
サドル高原
(ハワイ島ハヴィ浄土院)

移り来て あたらしく建つ カフルイの

み寺美し 今日のよろこび (マウイ島カフルイ浄土院)

そうそうと 流るる渓に たたずみて

イアオの針の 峰をあおげり (マウイ島ワイルク浄土院)

ラハイナの 浜辺に立てば あかねさし

日は沈みゆく 島のかなたへ (マウィ島ラハイナ浄土院)

珊瑚礁 うちよす白き 波がしら

朝日に映ゆるカパアの海辺 (カウアイ島カパア浄土院)

ハワイにて 日本に近き カワイ島

木木のしげりも なつかしきかな (カウアイ島コロア浄土院)

(図表は4ページ)

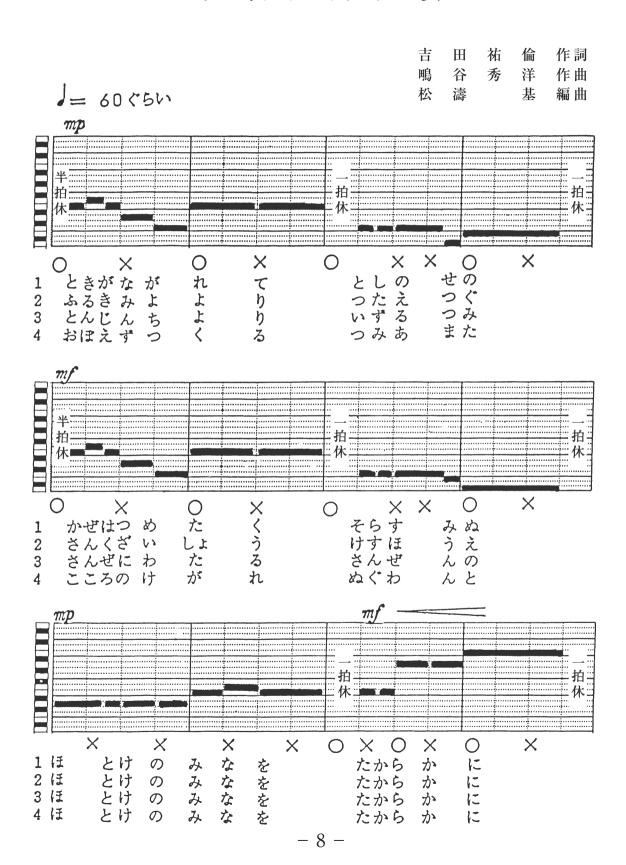
ぶつ みょう え 仏名会和讃

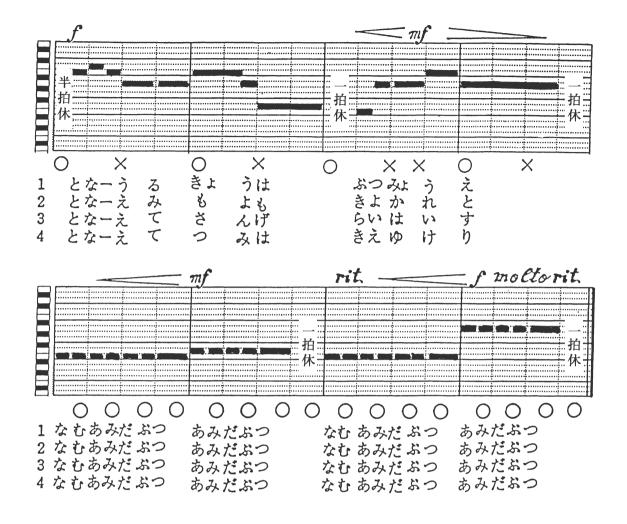
吉 田 祐 倫 作詞

- 1 時が流れて 年の瀬の 風は冷たく 空澄みぬ 仏の御名を 高らかに 称うる今日は 仏名会 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏
- 2 古き御代より 伝え継ぐ 芸術罪障 消す法会 仏の御名を 高らかに 称え身も世も 清かれと 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏
- 3 賞瞋痴より 出ずる罪 芸世にわたる 芸羊の 仏の御名を 高らかに 称えて懺悔 礼拝す 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏
- 4 覚えずつくる 罪あまた 心の汚れ 拭わんと 仏の御名を 高らかに 称えて罪は 消えゆけり 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

(図表は8ページ)

仏名会御和讃





ポィント注意

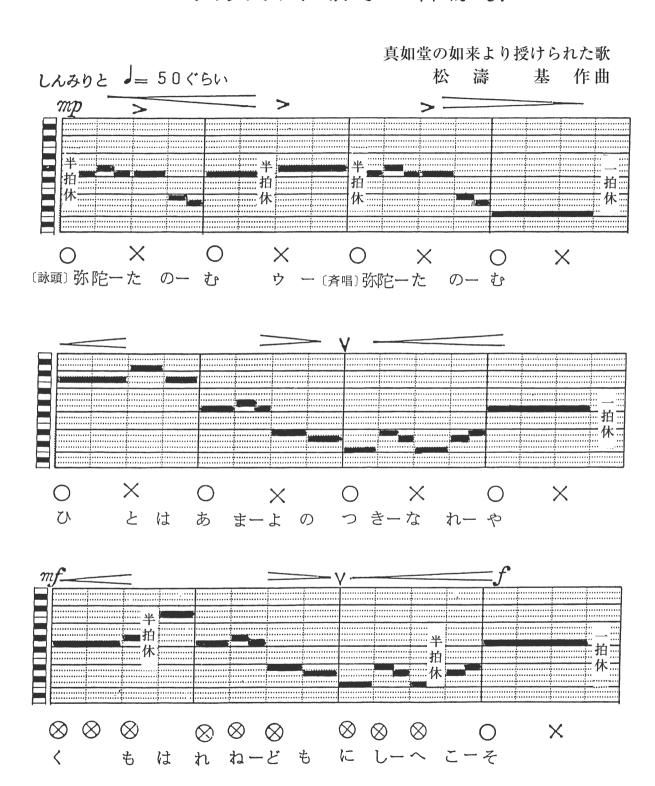
- 4拍子の曲です。従って1小節の中に2つの強声部があります。
- ●第2小節の「て」の声は充分に保ちきって「とし」と軽く受ける要領をその 後も同様に。
- ●「たからかに」から「となうるきょうは」の部分は特に心をこめて。
- ●後部の「ぶつみょうえ」から「なむあみだぶつ あみだぶつ」をやさしく唱 えましょう。

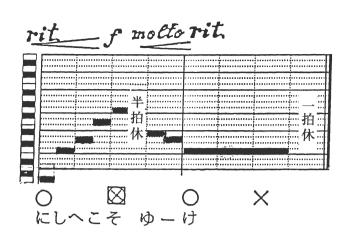
ポイント注意

歌詞を味わいながらお唱えしましょう。 テンポ遅くならないように。

最終「お念仏」は力強く、ゆっくり「あみだぶつ」とていねいに。

久美浜本願寺の御詠歌





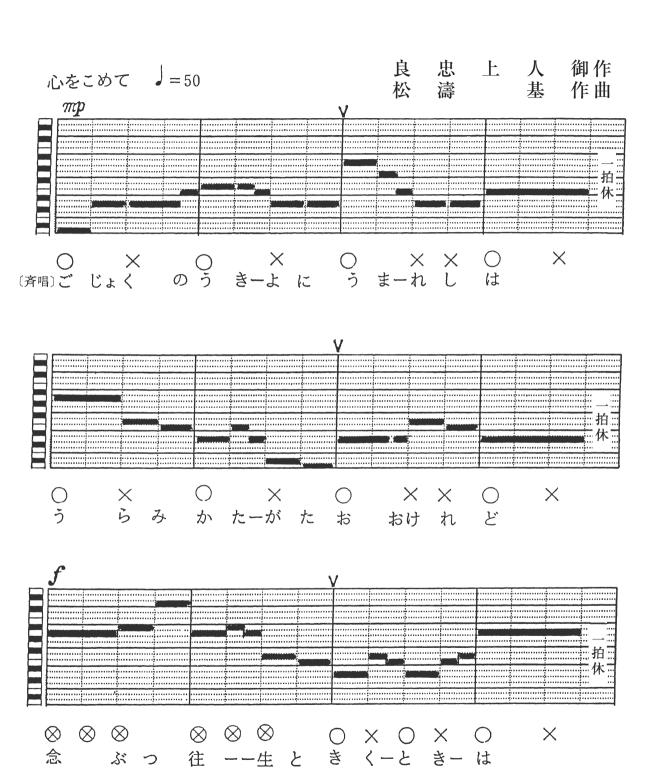
くるはほれがいじ 久美浜本願寺の御詠歌

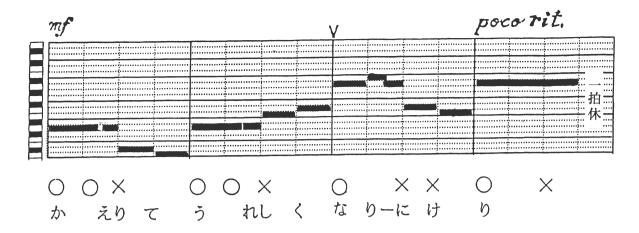
真如堂の如来より授けられた歌

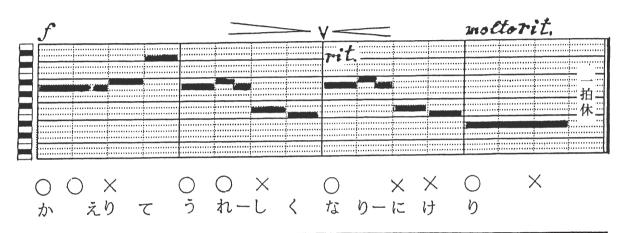
弥陀頼む 人は雨夜の 月なれや 雲はれるども で

ポイント注意 半拍休止で発声するところは、アクセントに注意して弱くならないよう。 最後は明るく力強く、ゆっくりまとめましょう。

念仏往生御和讃







ポイント注意 三祖良忠上人御作の、大切なお訓しです。心をこめて力強くお唱えします。

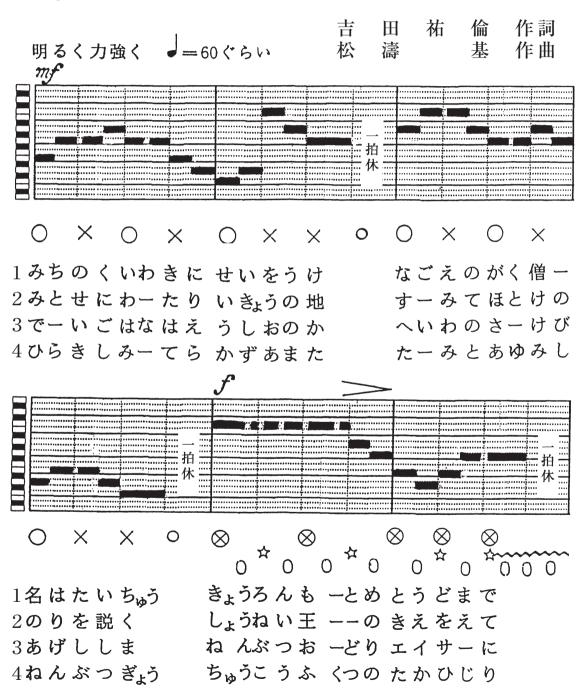
ねんぶつおうじょう 念仏往生和讃

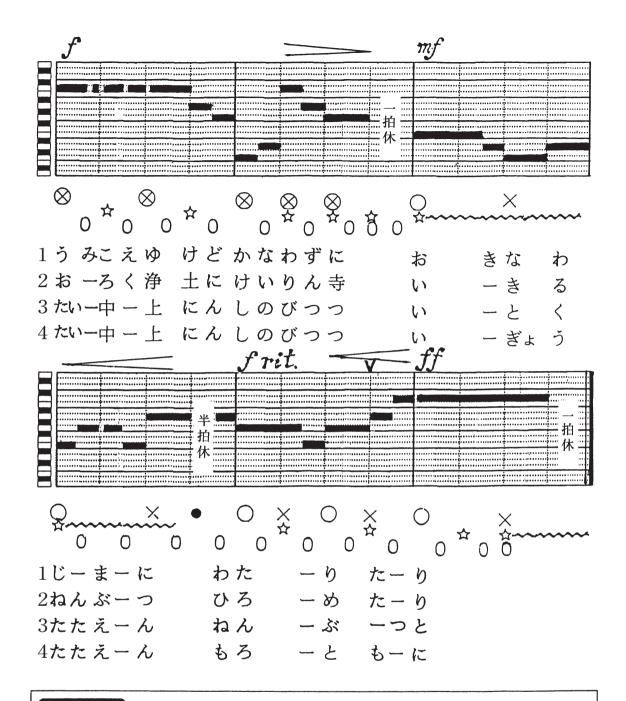
三 祖 良 忠 上人 御作

五生恨多念聞かなかなのしかれ往時りにりにがと 嬉り嬉りにりにけてけてけてけるりにりにりにりにりにりにりにりにりにりにりにいる。

袋中上人顕彰御和讃

☆=スズをふる 歩~~~~スズをふりつづける O=も(ぎょまたはかいしゃくをうつ



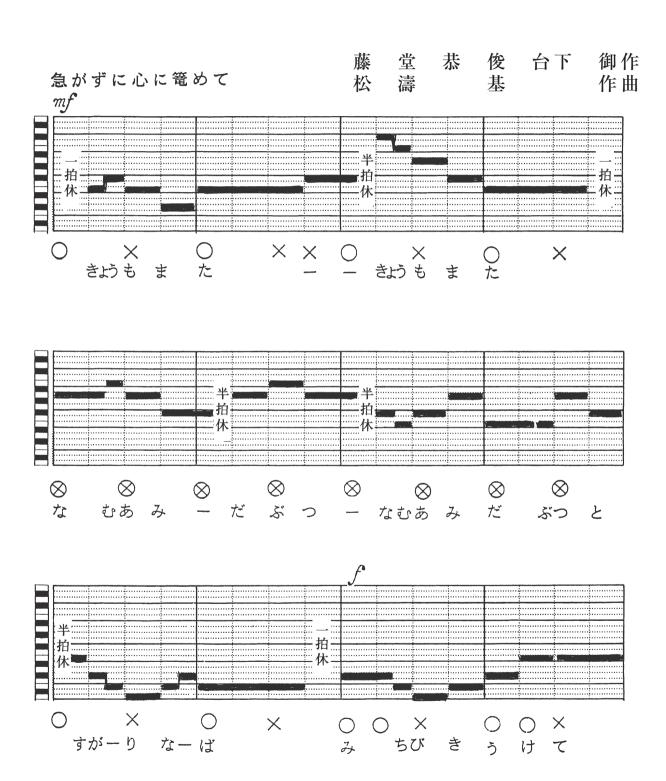


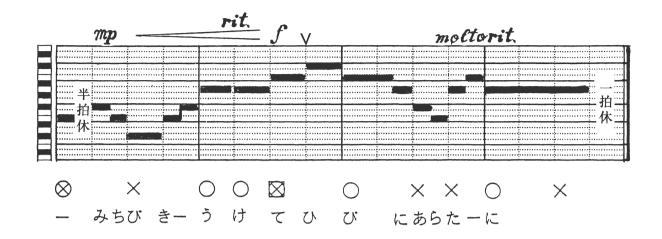
ポイント注意喜びに溢れて遅くならないように。

5小節目と7小節目は大きく躍動して、9小節目からはなめらかに最後2小節は次第にゆっくり、次第に大きく盛り上げます。

(歌詞は20ページ)

日日に新たの御詠歌



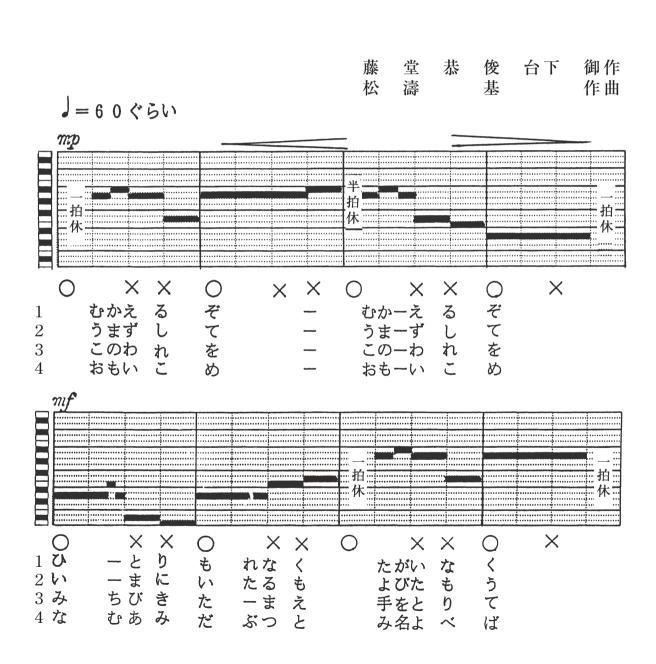


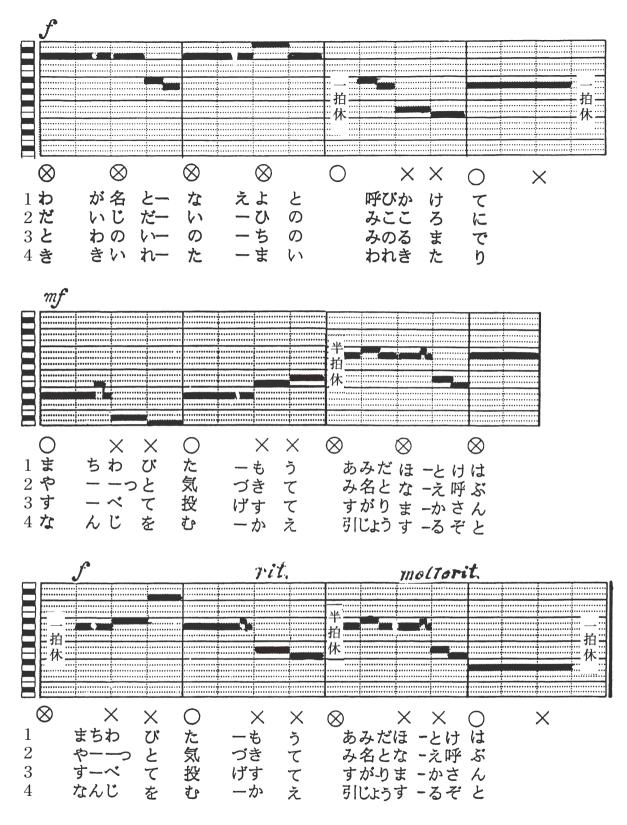
ひ び しょう 日日に新たの御詠歌

藤 堂 恭 俊 台下 御作

今日もまた 南無阿弥陀佛と すがりなば 導きうけて 日日に新たに

引 接 御 和 讃





(ポイント注意と歌詞は21ページ)

たいちゅうしょう にん けんしょう 袋中上人顕彰和讃

吉 田 祐 倫 作詞

- 2 三年にわたり 異境の地 住みて仏の 法を説く 尚寧王の 帰依を得て 小禄浄土に 桂林寺 生きる念仏 弘めたり
- 3 梯梧花映え 潮の香 平和の叫び あげし島 念仏踊り エイサーに 袋中上人 偲びつつ 遺徳讃えん 念仏徒
- 4 開きしみ寺 数あまた 民衆と歩みし 念仏行 中興不屈の 高聖 袋中上人 偲びつつ 偉業讃えん もろともに

(図表は14ページ)

明接和讚

藤 堂 恭 俊 台下 御作

- 1 迎えるぞ 迎えるぞ 一人漏れなく たがいなく 我が名となえよと 呼びかけて 待ちわびたもう 阿弥陀ほとけは 待ちわびたもう 阿弥陀ほとけは
- 2 倦まずして 倦まずして 今にいたるも 呼びたもう 大慈大悲の みこころに やっと気づきて み名となえ呼ぶ やっと気づきて み名となえ呼ぶ
- 3 この我れを この我れを 導きたまえ 手をとりて とわのいのちの 実るまで すべて投げすて すがりまかさん すべて投げすて すがりまかさん
- 4 おもい込め おもい込め 南無阿弥陀仏と み名呼べば 聞き入れたまい 我れ来たり 汝を迎え 引接するぞと 汝を迎え 引接するぞと

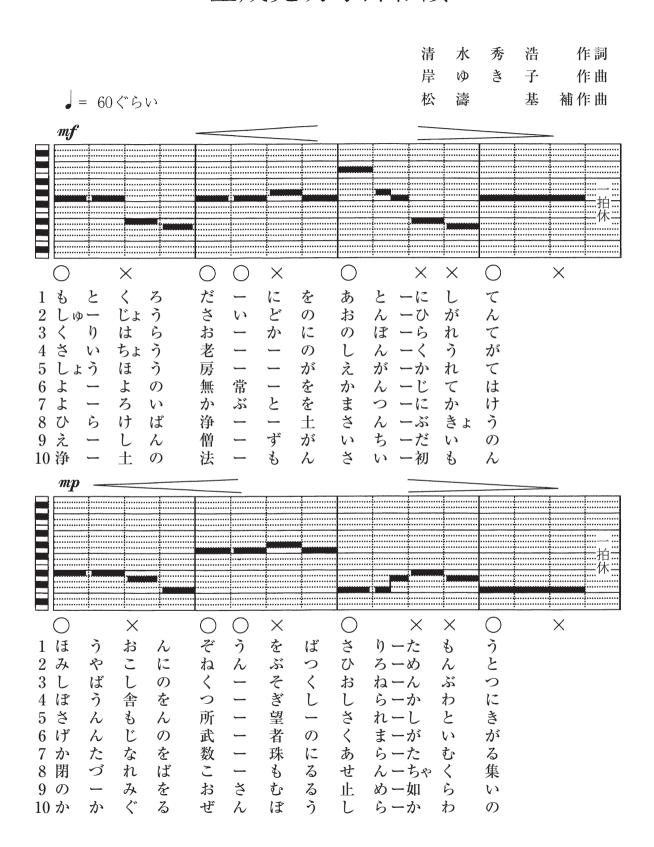
ポイント注意 • 唱える前に、歌詞をじっくり音読しましょう。藤堂大僧正の切々としたお諭しが篭められております。

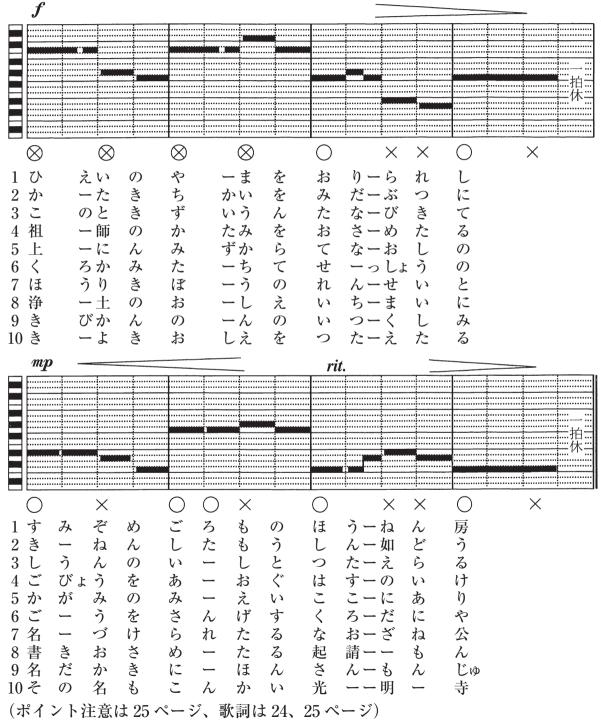
● この曲に限らず、お唱えでは、息継ぎ(ブレス)が大切なのです。お唱えは器 楽のメロディ表現と違って、ことばの区切りも大切です。

例えば 1番では「我が名・となえよ」。2番の「み名・となえ呼ぶ」。4 番では「み名・呼べば」のような箇所です。ことばを区切らないと「み名」が 「皆」のように表現されてしまいますから。

(図表は18ページ)

金戒光明寺御和讃





こんかいこうみょうじ金戒光明寺和讃

清 水 秀 浩 作詞

- 3 栗原岡に 登られて しばしの休息 お念仏 この時瑞雲 たなびきて 紫雲の石と 伝えらる
- 5 勝法房が 描かれて 賛文所望 されしとき 上人自ら 手直しの 鏡の御影 ここに在り

- 6 世々の無常を 感じては 源氏の武者の 熊谷が 黒髪断ちて 殺生の 業を懺悔す 黒谷や
- 7 **鎧かぶとを** 松に掛け 刀を数珠に 敬むる 法力房の 蓮生と 名付けられたる 直実公
- 8 開けば浄土 三部経 閉づれば籠る 選択集 浄土の教え 一枚に 書き納めたる 起請文
- 9 恵心僧都が 一代の 鑿を収むる 止め如来 き びかんのん 吉備観音の 慈しみ 名高き日本 三文殊

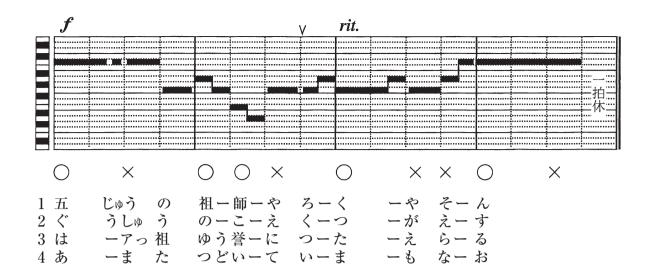
ポイント注意

- ●子守唄風に しんみりと
- ●各節9小節目からの「転句部」は、1拍目・3拍目の強声部を大切に盛り上がります。

(図表は22ページ)

聖冏上人鑽仰御和讚

蓮 池 光 洋 作詞 のびやかに = 60ぐらい 松 濤 基 作曲 mf $0 0 \times$ X X X X くーにーは いー わ 1 ひ たちの おーしーえ うー け 2 浄 - 土 の しーちー書 ごー じゅ 中ーこーう 名ー は 3 さ んがん 4 浄 しょう げーい +: X X X X 1 < ほとりー に うーま じがわ ーれ いーづ んごく でんらーい れーェ 2 さ っ祖 でーん みおしーえ たーて 3 祖 一 師 ーな \mathcal{O} ろくやーと かづき あーお れー 4 A mp \otimes \otimes \otimes \otimes \otimes \otimes X X 1 りょうじつろくそを 師とあおぎ ね んぶつのーみちは げみゆく 2著ー書もあまたの がくとくそう ひ ろがるねぶつに矢 ささるも こ.. ~ 1a m つに失 ささるもく じゅしんでーんのみ おしえをま 一つ h カット・・ 3ねんぶつかくりつ 五重ーの伝 4みのりのあーきの つきてらし ま 一つりたのしやね んぶつ衆



ポイント注意

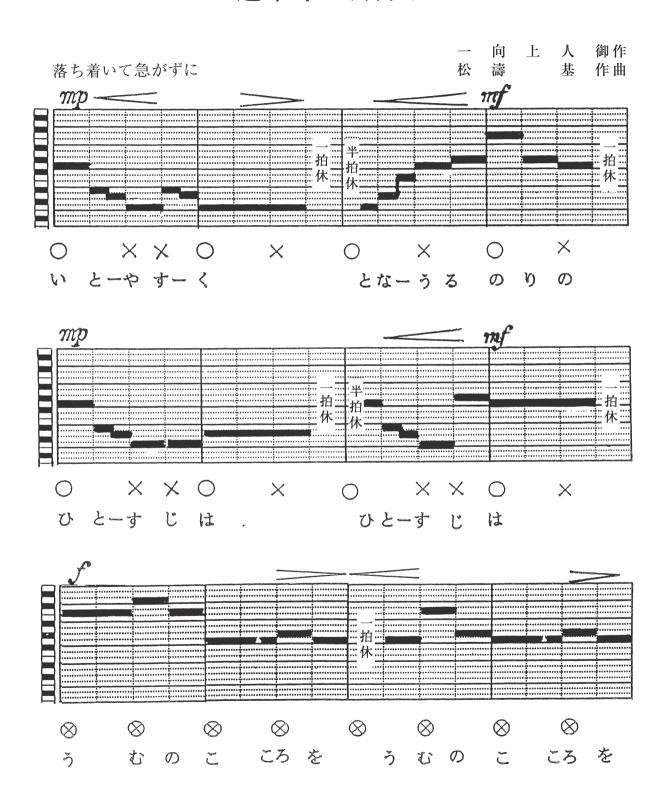
- ●曲を通じて、明るくお唱えしましょう。
- ●各節9小節目からの「転句部」は、特に歯切れよく躍動してお唱えします。

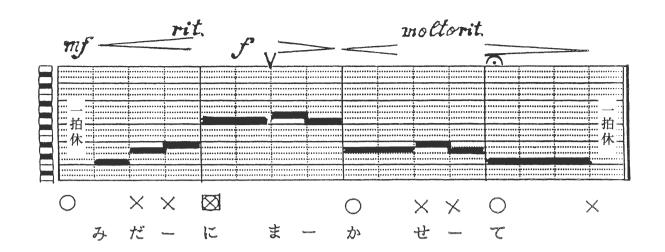
しょうげい しょうにん さん ごう 聖冏上人鑽仰和讚

蓮 池 光 洋 作詞

- 1 常陸の国は 岩瀬城 常陸の国は 岩瀬城 久慈川ほとりに 生まれ出づ 了実六祖を 師と仰ぎ 念仏の道 精みゆく 五重の祖師や 六夜尊
- 2 浄土の教え 受け継がれ 三国伝来 列祖伝 著書もあまたの 学徳僧 広がる念仏に 矢刺さるも 寛宗の声 くつがえす
- 3 三巻七書 五十五箇 祖師のみ教え 建て直し 念仏確立 五重の伝 「ビゅしんでん」 口授心伝の み教えを 八祖酉誉に 伝えらる
- 4 浄土中興 名は聖冏 名は聖冏 三日月六夜と 仰がれて 実りの秋の 月照らし 祭り楽しや 念仏衆 あまた集いて 今もなお

蓮華寺の御詠歌



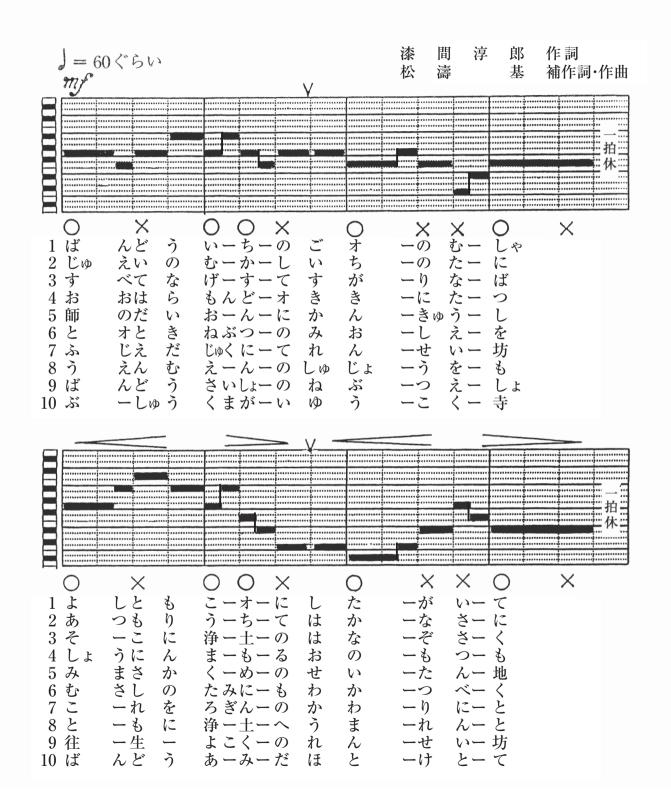


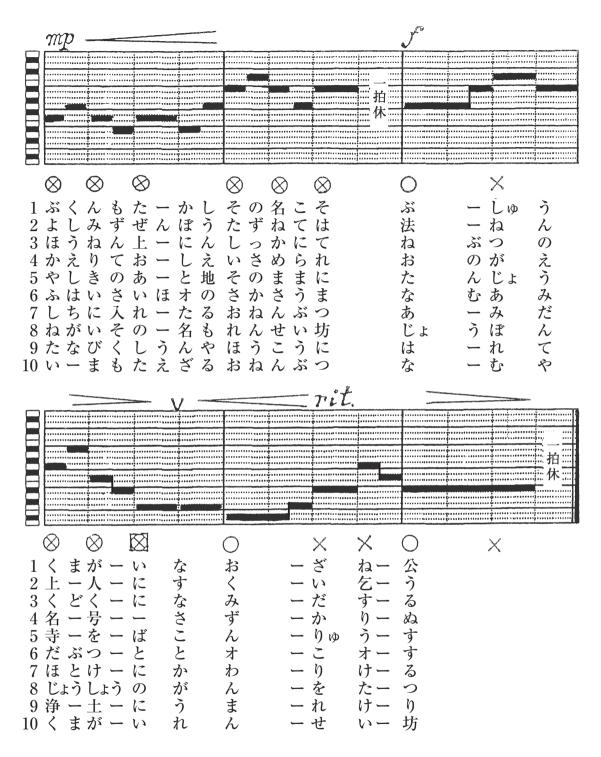
近江の国 本山蓮華寺

一向上人御作

い と 易 く 唱 う る 法 の 一 筋 は 有 無 の 心 を 弥 陀 に ま か せ て

蓮生法師御和讃





(ポイント注意と歌詞は32ページ)

ルルせいほっ し 蓮生法師和讃

漆 間 淳 郎 作詞 松 濤 基 補作

- 2 寿永の昔 一の谷 敦盛討ちて 果敢なさに 吉水禅房 訪ねては 法然上人に 救い乞う
- 3 全て投げ捨て 離りなば そこに浄土の 花ぞ咲く
 法然上人 膝下にて 念仏の功徳に 涙する
- 4 大原問答 危機に立つ 上人守る 斧持つも かえりて教え 諫められ 「斧替名号」 授かりぬ
- 5 師の大恩に 感泣し 美作久米の 生誕地 屋敷の跡地 そのままに 誕生寺をば 建立す
- 7 藤枝宿にて 蓮生坊 これを路銀の 代わりにと 質に入れたる お念仏 阿弥陀ほとけに 化わりける
- 8 有縁無縁の 衆生をも 共に浄土へ 生まれんと 願いその名も 蓮生坊 上品上生の 願を立つ
- 9 坂東最初の 念仏道場 往生予告の 蓮生坊 たなびく紫雲や 芳香に 晴れて浄土に 生まれけり
- 10 武州熊谷 熊谷寺 坂東阿弥陀 ほとけとて 今も絶えざる お念仏 なむや熊谷 蓮生坊

ポイント注意

● 2小節目、6小節目、12小節目の「強弱強」そして息継ぎ(ブレス)、続いて 4拍目のやさしい弱起となります。

しゅうをほうねんしょうにんはっぴゃくねんだいおんき 宗祖法然上人八百年大遠忌和讃

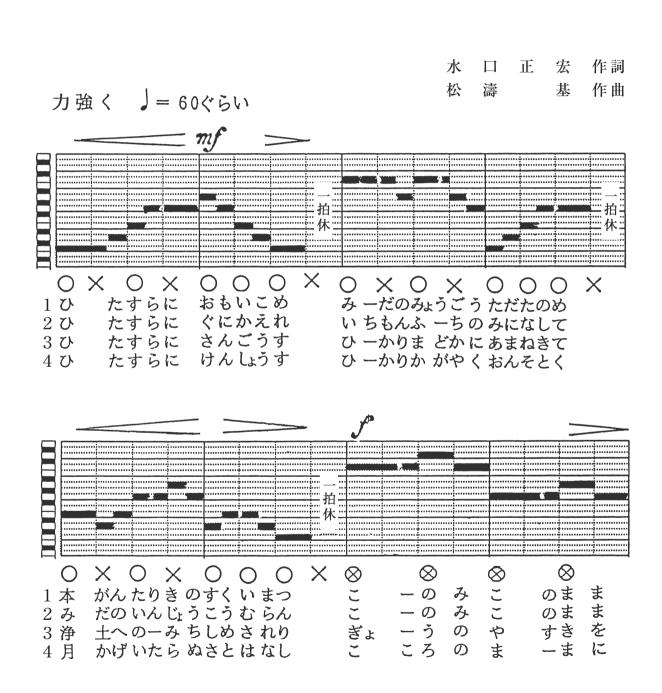
水口正宏作詞

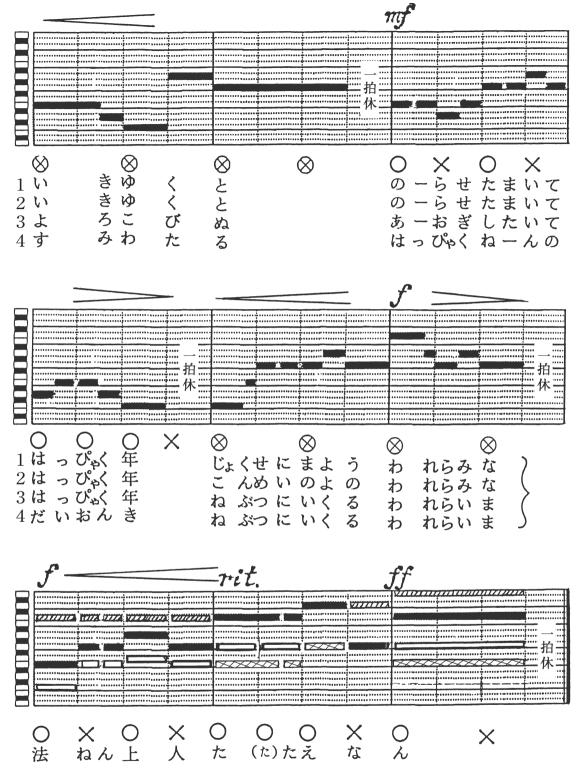
- 1 ひたすらに 念いこめ 弥陀の名号 ただたのめ 本願他力の 救摂まつ この身このまま 生き往くと 宣らせ給いて 八百年 濁世に迷う われらみな 法然上人 讃えなん

- 4 ひたすらに 顕彰す 光り輝く 御祖徳 月影いたらぬ 里はなし 心のままに すみわたる 八百年の 大遠忌 念仏に生くる われらいま 法然上人 讃えなん

(図表は34ページ)

宗祖法然上人八百年大遠忌御和讚



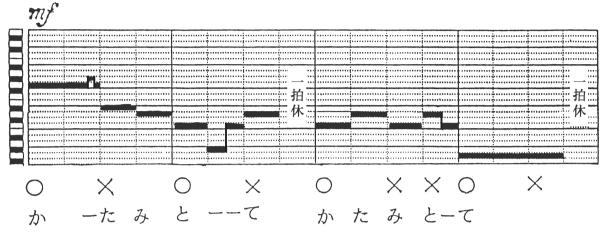


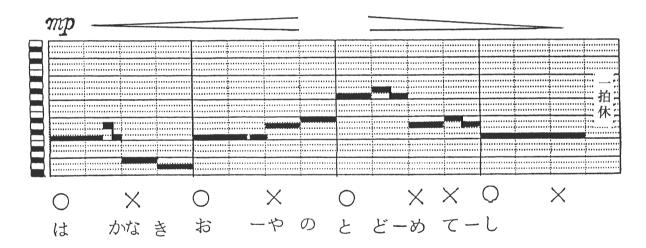
(歌詞は33ページ)

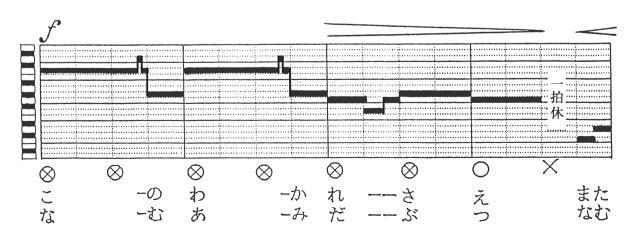
かたみとての御詠歌

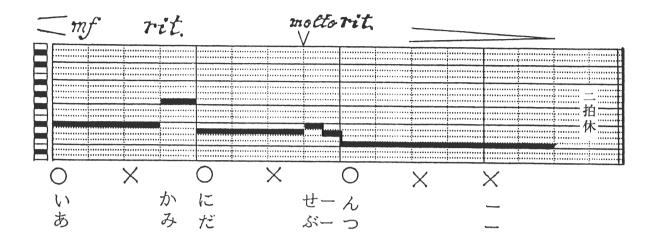
秦 氏 君 御作松 濤 基 作曲

やさしく 普通の速さにて









ポルト注意

◆ 1小節目の「こぶし」は弱音で「た」を強く、9・10小節目の「こぶし」 は力強い声から「の」・「か」を弱く表現します。

(歌詞と解説は38ページ)

かたみとての御詠歌

秦氏君御作

かたみとて はかなき親の とどめてし この別れさへ またいかにせん

このお歌は法然上人の母、秦氏君がお詠みになりました。

法然上人は長 承 2年(1133) 4月7日、美作の国(現在の岡山県) 久米南条 稲 おかのしょう 日本 にお生まれになりました。父は後間時国公といいます。この日、屋敷の様の本に白い幡二流れが掛かり7日の後、天に上り去りました。この奇瑞は仏天がお誕生を喜ばれたことを示しています。幼名は勢至丸と付けられました。

勢至丸9歳の時、明石源内武者定明の夜討ちに遭い、父時国公は深手を負います。死に臨み「敵を恨むなかれ、はやく出家して、私の菩提を弔い、自らの解脱を求めよ」と遺言なされます。勢至丸は、同国菩提寺の観覚の弟子となりました。この方は秦氏君の弟、勢至丸の叔父にあたります。菩提寺にて修行すること数年、叔父観覚は勢至丸の学才を見抜き、比叡山延暦寺で修行することを勧め、勢至丸も同意しました。

観覚と勢至丸は母秦氏君の所へ行き、比叡山に登ることの許しを求めます。母秦 氏君は道理に折れて承諾しますが、気持ちの上では別れの悲しみを抑えることが出 来ません。その思いを詠まれたのがこのお歌です。

大意 夫である漆間時国公と死別した辛さを経験した私です。父親の忘れ形見として残し置かれたこの子勢至丸が、父の遺言に従い仏道を歩んでいます。今勢至丸は比叡山へ行き更に高い仏道修行を目指しています。弟観覚の住持する菩提寺にいるならすぐにも会えますが、ここから遠く、しかも女人禁制の比叡山では会うこともできません。長い別れになるでしょう。我が子の学業成就を願う私ですが、夫と別れ、またさらに子供とも別れる私の辛さも分かってください。

(図表は 36 ページ)

ゅうこく じ 熊谷寺の御詠歌

蓮 生 法 師 御作

浄土にも 剛の者とや 沙汰すらん 西に向かひて うしろ見せねば

このお歌は法然上人の弟子、蓮生法師がお詠みになりました。

並生法師は永治元年(1141)、武蔵国熊谷郷(現在の埼玉県熊谷市の一部)の領主熊谷直貞の子としてお生まれになりました。幼弟を1954年、元服して熊谷次郎直実と名乗ります。保元元年(1156)16歳の時、郷郷 義朝公に従い武勲を立てました。寿永3年(1184)44歳の時、一ノ谷の合戦において笛の名手、平 敦盛を討ち取りますが、世の無常を感じ出家の思いを強くします。ついに法然上人と面会することになり、法然上人は直実公に「罪の軽重を問わず、ただ念仏さえ称えれば、極楽に往生することができます」とお話しされました。その言葉を聞いて、「手足を切り、命を捨ててこそ往生できる」と思っていた直実公はさめざめと泣いてしまいました。を捨ててこそ往生できる」と思っていた直実公はさめざめと泣いてしまいました。季り、人からは蓮生法師と呼ばれました。蓮生法師は念仏の教えを故郷の人々にも伝えようとして武蔵に向かいます。法師は、いつのときでも西方浄土の阿弥陀仏に背を向けないという「不背西方」の教えを信じていましたので、東の方角である武蔵には馬に逆さに乗り、西に向かってうしろを見せないようにして行かれました。その時のことを詠まれたのがこのお歌です。

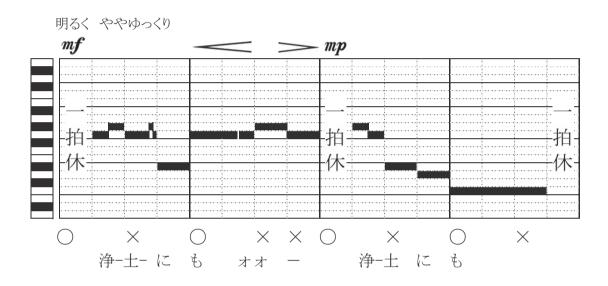
このお歌を「熊谷寺の御詠歌」と呼ぶのは、熊谷寺が蓮生法師の生誕し往生なされた所に建てられた寺であり、蓮生法師がそこに向かわれた時のことを詠まれたことによります。

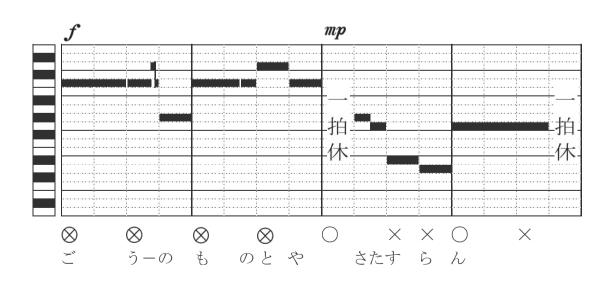
大意 私、蓮生は、その昔熊谷直実と名乗る武士として一ノ谷の合戦において平敦盛公を討ち取りました。その時より世の無常を感じ、法然上人の弟子となりました。上人より、いつのときでも西方浄土の阿弥陀仏に背を向けないという「不背西方」の教えを頂き今日に至るまで実行しています。このたび武蔵に向かうにあたり、馬に逆さに乗り、西に向かってうしろを見せないようにしています。この私の姿を見て、極楽浄土においても、私のことが剛の者(意志の強い者)と、沙汰する(評判になる)ことでしょう。「不背西方」の教えの通り、西に向かってうしろを見せないようにしているのですから。

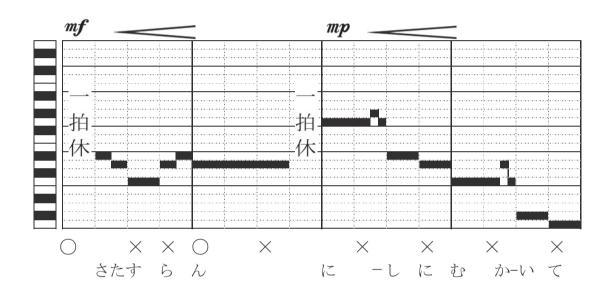
(図表は 40 ページ)

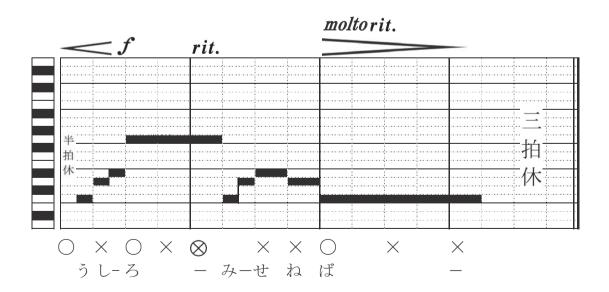
熊谷寺の御詠歌

蓮 生 法 師 御作 松 濤 基 作曲



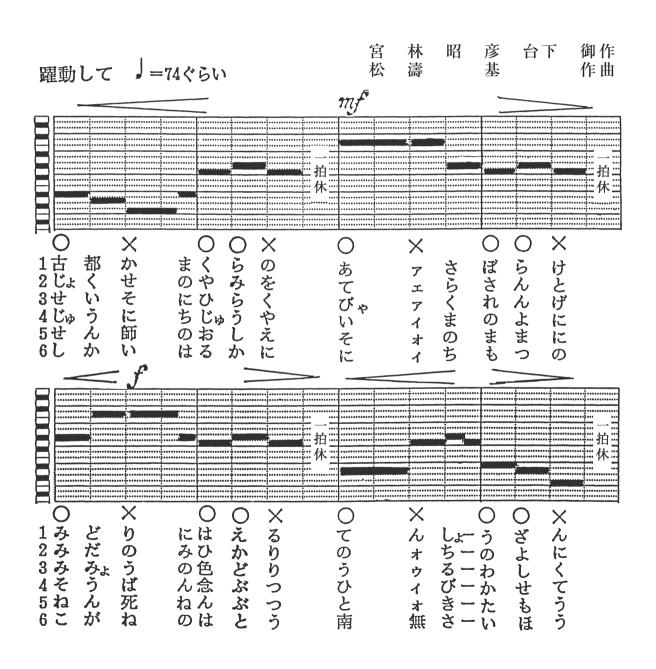


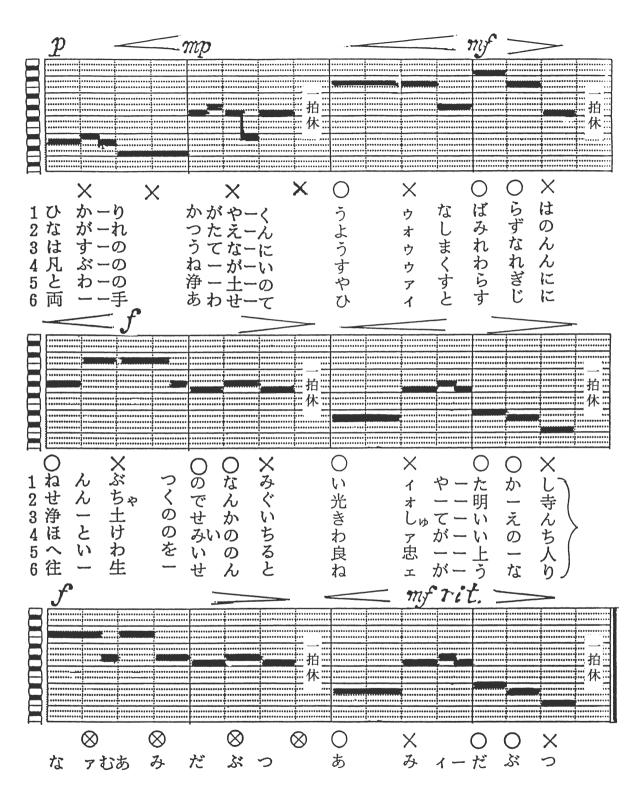




(歌詞と解説は39ページ)

鎌倉光明寺の御和讃





(歌詞は44ページ)

かまくらこうみょうじ 鎌倉光明寺和讃

宮 林 昭 彦 台下 御作

- 1 古都鎌倉の 朝ぼらけ を対象に 対象に 対域に 大阪 は 大阪 は 大阪 は 大阪 は 大阪 は 大阪 は 大阪 な か か の か か 高 し な む あ み だ ぶ つ あ み だ ぶ つ
- せいそのら びゃくれん げ 清楚に開く 白蓮華 3 み みょう いろどり うる 微妙の色彩 美わしく はす うてな 生まれなん 蓮の台に せかい きしゅていえん記主庭園 なむあみだぶつ あみだぶつ

- 4 十日十夜 末世の世に 十日十夜 末世の世に 双盤念仏 響かせて 双盤ぶんながい 救われん ほよけ みいのち 佛の命 わがいのち なむあみだぶつ あみだぶつ
- しかいはる にちもつ 四海遥かに 日没の 6 こがね はとう な む さいほう 黄金の波濤 南無西方 りょうてあわ 両手合せて ひとすじに ねがう おうじょう 往生せんと 欣求なり なむあみだぶつ あみだぶつ

(図表は42ページ)

れいたくしょうにん 霊沢上人和讃

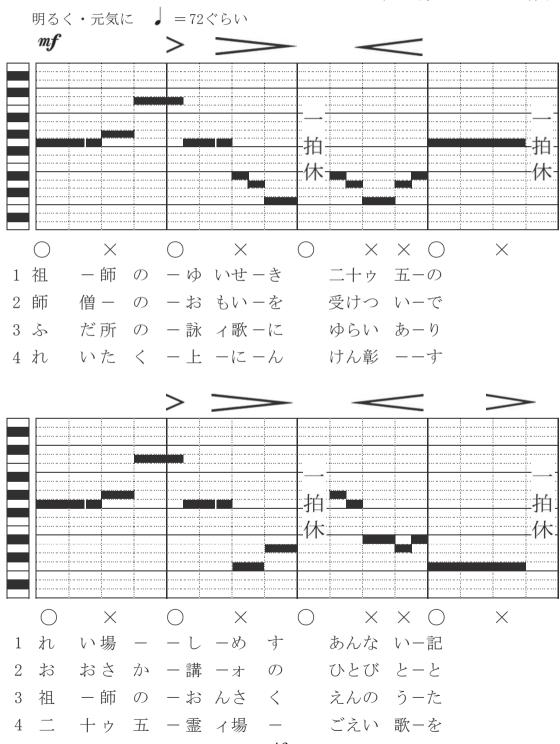
加藤良光作詞

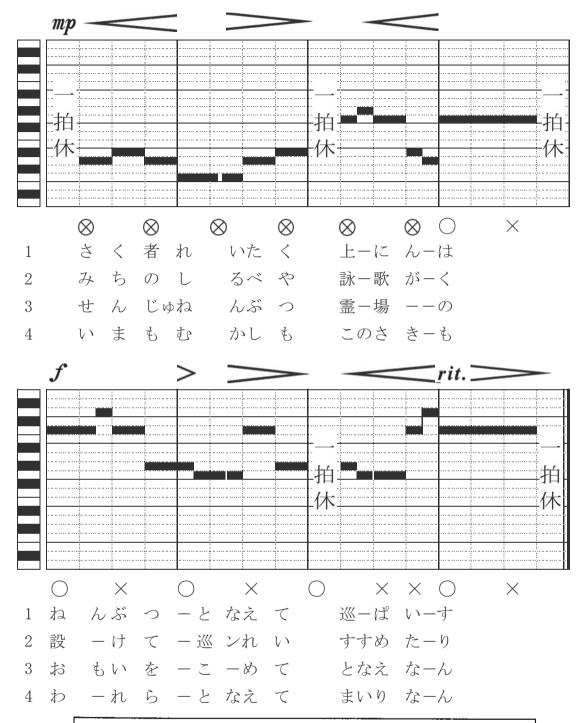
- 3 札所の詠歌に 由来あり 札所の詠歌に 由来あり 祖師の御作 縁の歌 せんじゅねんぶつ れいじょう 専修念仏 霊場の 思いを込めて 唱えなん

(ポイント注意は 47 ページ、図表は 46 ページ)

霊沢上人御和讃

加 藤 良 光 作詞 松 濤 基 作曲

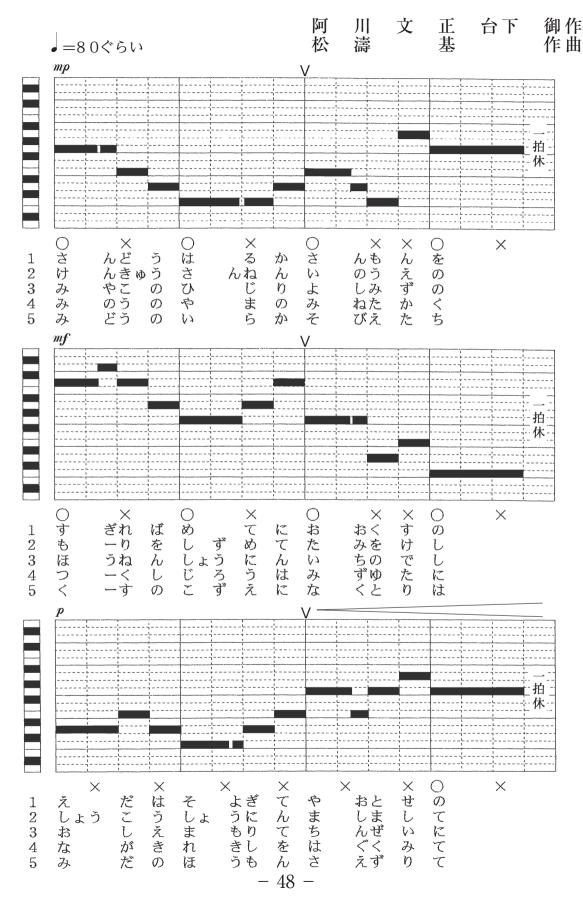


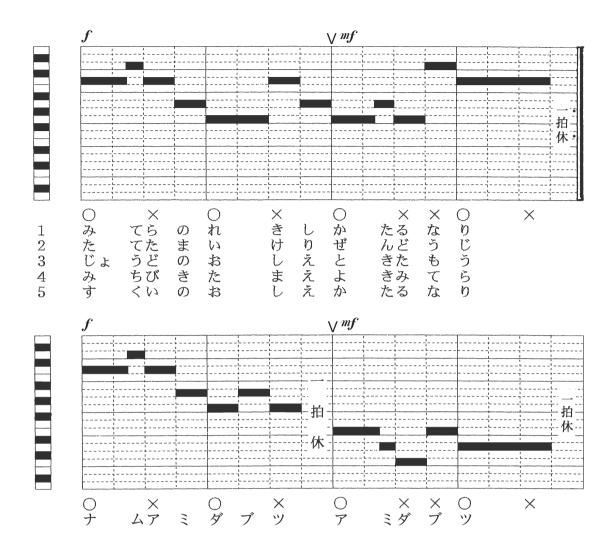


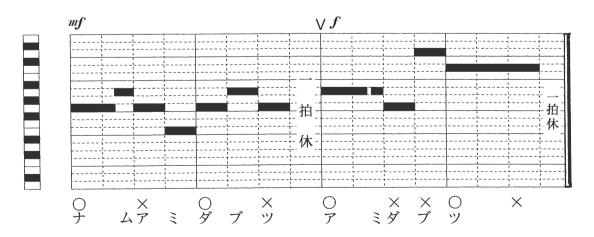
ポイント注意

- ●このお唱えは五声音階の陰旋律です。テンポ遅れると曲調が変わるので テンポを守りましょう。
- ●半拍休・1拍休からの立ち上がりを強調して明るく唱える。
- ●但し、七五調四行詩の3行目「変化部」は滑らかに、「結句」4行目を 元気に盛り上げます。

善導寺の御和讃







(歌詞は50ページ)

^{浄土宗大本山}ぜんどうじ **善導寺和讃**

大本山善導寺第六十七世 阿 川 文 正 台下 御作

- 1 参道はるか 三門を 4 過ぎれば右手に 大楠の 枝はそよぎて 八百歳の み寺の歴史 語るなり
- 4 耳納の山の みね高く 耳納の山の みね高く 筑紫次郎は 水ゆたに 長き歴史を はぐくみて 導き給え 善きみ寺
- 2建久三年井の上の5森を鎮めて民を化し聖光上人ましまして建て給いけり善導寺
- 3 都のひじり 吉水の法然上人 一の弟子教えまもりて 鎮西に浄土の教え 説きたもう

(図表は48ページ)

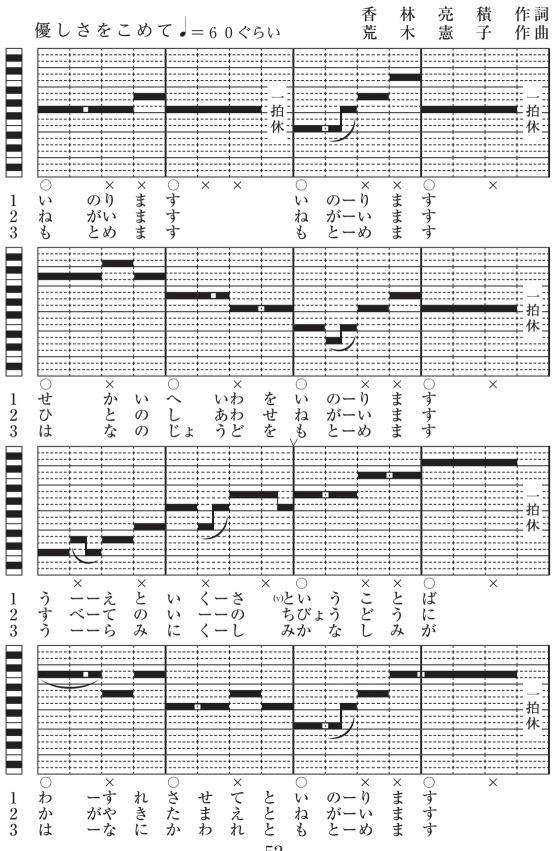
マ和和讃

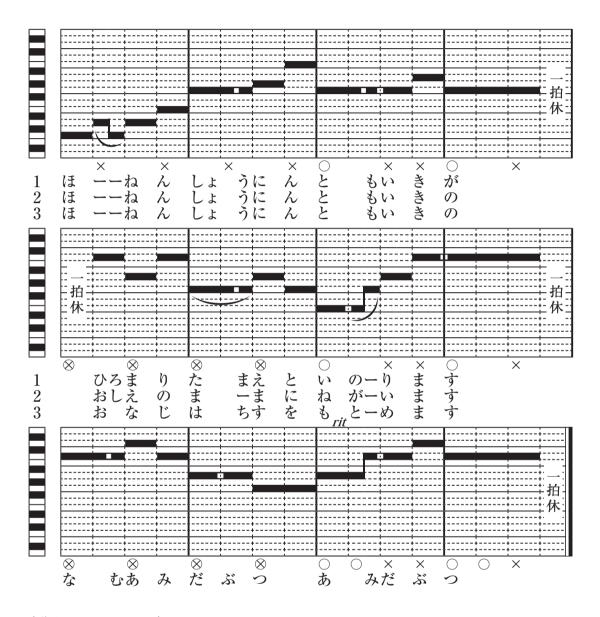
香 林 亮 積 作詞

- 1 祈ります 祈ります 世界平和を 祈ります 飢餓と戦争 という言葉 忘れさせてと 祈ります 法然上人 共生が 広まりたまえと 祈ります 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏
- 3 求めます 求めます 花の浄土を 求めます 怨み憎しみ 悲しみが 花にかわれと 求めます 法然上人 共生の 同じ蓮を 求めます 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏
- 2 願います 願います 全人類の幸せ 願います すべての命 平等に 輝きたまえと 類にます 法然上人 共生の 教えのままに 願います 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

(図表は52ページ)

平和御和讚

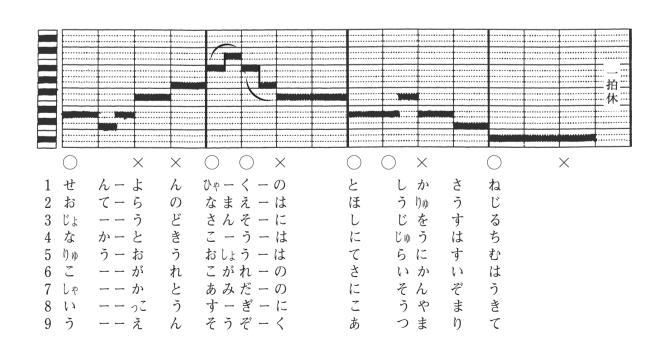


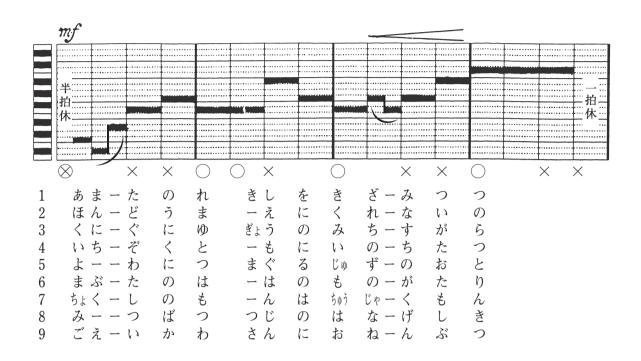


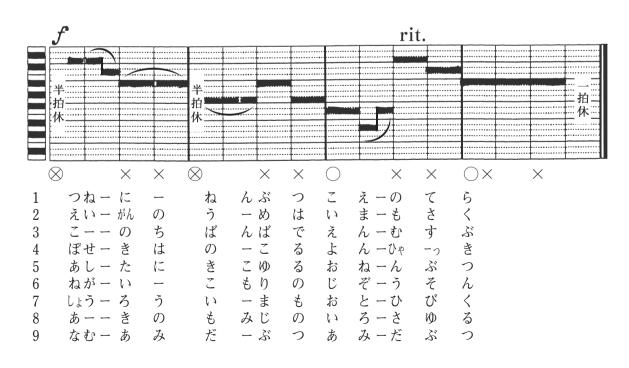
(歌詞は51ページ)

蓮華寺御和讚









れん げ じ **蓮華寺和讃**

加藤良光作詞

- 3 聖一向 上人は いいっこう しょうにん 聖一向 上人は いいっとう 上人は いいっとう 上人は いいっとう とれる 第土三祖に 師事をする くにぐにゅぎょう みた すがら 国々遊行の 道すがら この地番場で 縁結ぶ
- たん だいしょく ほうじょう し 探題職の 4 北条氏 にじゅうはち二十八 なか とき こう 伸時公は いちぞく いのちた 一族ともに 命絶つ ぼせき のこ よん ひゃく き 墓石は残る 四百基

- ほう らいてい いけだ 蓬莱庭は 池を抱く 8 いっこうすぎ こう や まき 高野槇 一向杉に みつ ば つつじ はなげしき 三葉躑躅の 花景色 あき もみじ いろさ 秋の紅葉の 色冴ゆる

いっこうしょうにん一向上人和讃

加藤良光作詞

- 1 浄土本山 蓮華寺を 浄土本山 蓮華寺を 開山された 上人の その名を一向 俊聖と かいさん 現山された 上人の その名を一向 俊聖と かれら草び 敬いぬ
- 2 一向聖 その生まれ ^{きゅうしゅうちく ご たかののしょう} 九州筑後 竹野荘 ^{ながひら こう} 永平公は 叔父にして

聖光二祖に 帰依をする

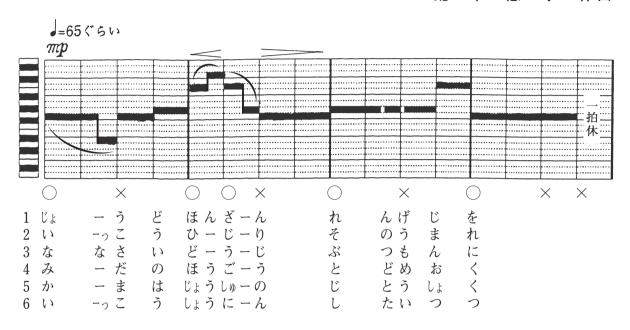
3 七歳童子 仏門に に じゅう いっさい 海土宗 二十一歳 浄土宗 りょうちゅうさん そ しようと よび よう とは 3 と は 4 と は 4

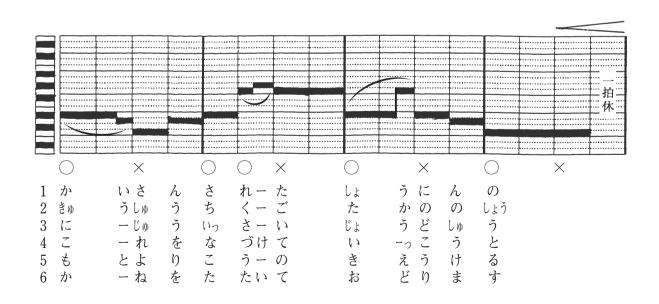
(図表は 58 ページ)

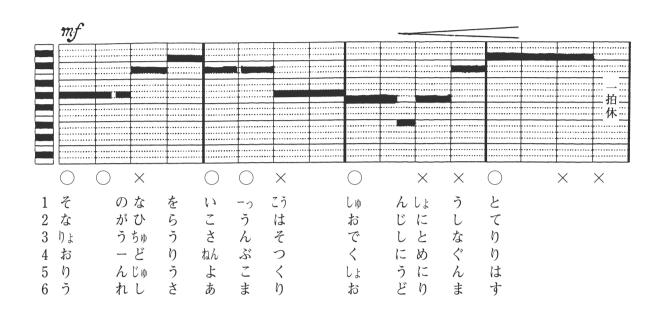
- 6 一向上人 *** 京におにん *** 京による ** 下による ** 下による ** 下による * 下にま

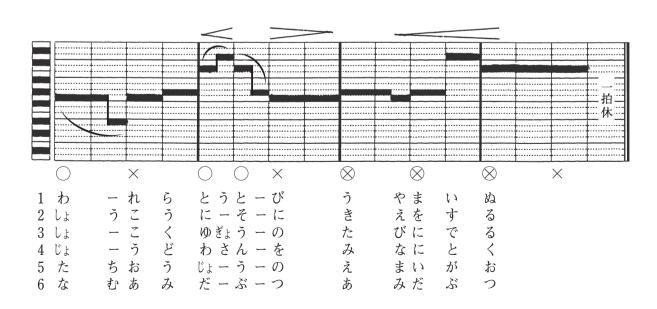
一向上人御和讚

加 藤 良 光 作詞 荒 木 憲 子 作曲









(歌詞は57ページ)

吉水流詠唱 平成新曲合本 図表用

不許複製

令和3年2月1日 初 版 第1刷発行 令和4年9月1日 初 版 第2刷発行

編 集 净土宗吉水講

発 行 净 土 宗

印刷 アド・アソシエイツ株式会社